

今、社会に求められている人材とは、文化や価値観の多様性を尊重しつつ、コミュニケーション能力や問題解決能力を身に付け、新しい価値を創造したり異なる他者と協働したりできる自立した人間であるといわれています。まさしく、北海道を元気にしていく鍵は、そのような人材を育成し、北海道の強みを活かしながらアジアとの共生を進め、より積極的に地域社会や北海道の発展のために貢献していこうとする意欲と実践力のある人づくりにあります。

私が現在勤務している北海道芦別高等学校は、北海道のほぼ中央、有名な富良野市の西隣に位置する芦別市にあります。この地域は、かつては産炭地として活気にあふれていましたが、石炭産業の衰退とともに人口減少が続ぎ、少子高齢化も急速に進んでいることから、街にはかつての元気がありません。

本校は、開校以来75年の歴史を誇り、地域に根ざした学校として「文武両道」をモットーとしながら、地域社会の発展



GO GLOBAL JAPAN EXPO 参加報告会の様子

に貢献できる人間の育成を使命としてきました。しかし、社会が大きく変化していく中で、地域社会の期待に応える人材を育成していくためには、教育内容や教職員の意識の改革が必要となりました。そこで、校内に将来構想委員会を立ち上げ、芦別高校が今後めざすべき姿を幅広い観点から検討していくことになりました。その変革のためのテーマとしたのが「内発性の喚起」です。生徒の内発性を促す様々な外発を仕掛けていくことで、地域社会や北海道の置かれている状況を客観的に捉え、積極的に課題解決に関わっていこうとする意欲を引き出し、いくことが狙いでした。

これまでの取り組みとして、文部科学省主催で全国規模の留学説明会である「GO GLOBAL JAPAN EXPO」への生徒の参加、生徒の企画・運営による台湾の修学旅行生の受け入れ、北海道教育委員会主催で選抜性の高い大学への



台湾からの修学旅行生との交流会記念写真

進学をめざすハイレベル学習セミナーへの参加、芦別市の助成によるオーストラリア短期留学の実施、世界の子供たちの教育事情を学ぶ北海道高等学校ユネスコ研究大会への生徒の参加、芦別ロータリークラブの方々による就職希望者の模擬面接等があります。これらにより少しずつ生徒達の視野が広がり、地域社会や北海道の発展のために頑張りたいという意識が高まってきました。将来、芦別高校生が、リーダーシップを発揮しながら大いに社会に貢献していく輝く存在となっていくことを心から願っています。

学校教育の現場から



湯浅 純人 SUMITO YUASA



北海道芦別高等学校 校長
地歴・公民科

1957年 北海道夕張市生まれ
1983年 明治大学法学部法律学科卒業
北海道別海高等学校 教諭
2004年 北海道二セコ高等学校 教頭
2012年 北海道雄武高等学校 校長
2014年 現職

明治大学に入学当初は、教師になろうとは全く考えていませんでした。所属していた「明治大学スキー倶楽部銀嶺」というサークルの先輩から、冬季のアルパイトとして紹介されたスキースタイルのインストラクターをしていた時に、中学生の団体を3校ほど担当しました。その体験で、教師の魅力の一端に触れたことにより、真剣に教師の道をめざすこととなりました。

北海道の教員として採用になり、教職課程で大変お世話になった先生にご挨拶に伺った時、「教師は最初の5年間でその後が決まる。最初の5年間は必死に勉強せよ。朝の3時前に寝てはいけない。」という厳しい饒の言葉をいただきました。教師という職業の責任の重大さに、覚悟を決めて赴任したことを覚えています。

北海道はこれまで、過疎や景気の低迷にあえいできました。今後も少子高齢化が急激に進み、人口減少も止まりません。このままでは北海道経済はジリ貧になることが確実です。しかし、このような状況を乗り越えるために、北海道は今、アジアと共に生きていくという方向性を強めています。北海道は豊かな大地に恵まれ、おいしい農産物を豊富に産出するこ

とができます。よい漁港から水揚げされる海産物のおいしさは世界でも有名です。豊かな水や清涼な空気、豊富な温泉にも恵まれ、道外、海外からの観光客を魅了しています。特に、北海道の人口が高いアジアとの結びつきを強めて、急成長を続けるアジア各国からの投資や観光客を呼び込み、海外に北海道の産品を輸出し利益を得る仕組み・仕掛けが北海道各地で進められています。



北海道芦別高等学校

地方創世は人づくりから